

炭素繊維は2年後本格化

カジグループ

仏JECにも単独初出展

糸加工、織布、編み立てから縫製まで手掛けるカジグループ(金沢市)は、新規事業として取り組む炭素繊維複合材料で、2021年8月期に量産機を導入したい(梶政隆社長)との考えを持つ。市場の反応を探るため12~14日にフランス・パリで開催された世界最大の複合材料展「JECワールド2019」にも単独出展した。

同社の炭素繊維複合材料はグループの織布企業、カシレーネ(石川県かほく市)とタジマ工業(名古屋市中東区)や岐阜大などの産学連携体で開

発した多品種少量生産技術を活用する。炭素繊維と樹脂繊維の混織系を使い、刺しゅう技術でプリフォームを作る。それを光成形システムで製作した型で生産する。カシレーネでは刺しゅう・成形の試験設備も導入している。「この1年で案件を固める。一定のめどは付いてきた」と梶社長は語る。

炭素繊維以外の新規事業では、ミシフジ(京都府精華町)と連携する「ウエアラブルも中量産に育ってきた」と言い、来期(20年8月期)の量産化を目指す。

アラブル以外では衣料品で、既に紳士服「ティモネ」やトラベルグッズブランド「トウー&フロ」を展開する。ティモネは18春夏からJALの機内紙に採用され、バッグブランドとのコラボもスタート。派的にアパレルやユニフォームの別注も増加し

て、19年8月期は衣料品全体で前期比20%増収を見込む。トウー&フロはアパレルや異業種とのコラボが進展し、今期は50%増収を計画する。JALやANAへの採用に加え、卸件数も拡大する。卸件数は前年より60件増え、180件となっている。